



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成27年8月10日（月）

Vol. 309

曾野綾子の「人間の分際」から

秋元 秀夫

曾野綾子は私と同年、美人で才たけて気の強い若々しい女（ひと）であり、作風また颯爽とした鮮涼感があります。

発刊を聞いて店頭に行ったらすでに11万部のベストセラーであります。私も若いうちはすべて努力、勉強だと信じて、スポーツも勉強も仕事も不眠不休で過ごした時代があります。60代、努力半分運半分と変わり、80代になった今は努力30%運70%、人間には変えられない運があるものだと思います。すべて努力すれば願いは叶うと教えられ、私もそう思って生きた時代がありました。曾野綾子曰く「為せば成るならどうして多くの日本人が命を賭けて戦ったあの東亜戦争に負けたのか！人には生まれながら持った器があります。運命であります。ですから自分の力で及ばない部分は神様に任せてあまり悩み、苦しまない事です。」だから人は祈る事を覚えたのであります。また、曾野綾子は「逆境の無い人生はないものです。人は常に何処かで最悪の事が起こるかもしれない覚悟が必要であります。覚悟は自分で決めるべきですから他人や国のせいにしてはならないと思うが日本のマスコミは自分達が選んだ政府の悪口を言うがそれではそんな政府を頼らず、自分の事は自分で守れとは市民にはなぜ言わないのか、学校も社会も若者も老人も甘やかさず自分でできる範囲の責任を果たす社会を作らなければ日本人は世界から侮られ続けるでしょ

う。人間にとって苦悩は極めて大切なものです。この経験が無いと人間性を失うからであります。悩みをいかに通り抜けるかは経験と知恵であります。私は運勢が悪い時は上手に避ける勇気を持ち、時には正面から立ち向かう勇気の両面が無いと生きてはいけないと思っています。」と彼女は喝破致しております。私の人生の最大の財産であり、誇りは素晴らしい人脈であります。良く言われることに、人脈とは自分の金儲けや権力の拡大の手段に使ってははいけないと言う鉄則があります。またそうした欲望を持つ人には、人脈は成り立たないものです。私の人脈の長続きのコツ？はあまり深く相手の心の中まで深入りしないで、少し距離と時間をとっております。相手に煩わしく思われたい様、さり気ない会話を大切に、お互いに心の支えと成る様に務めておりますから、いつも新鮮でその人の良さがあります。親子、家族でも同じだと思っています。ここ最近思うことは、現代の経営者の多くは自分の弱みをさらけ出さない、弱みを知られたくないと言う人が多い。私は転業漁民だったから弱みを真正面からさらけ出し、退路を絶って戦ってきたから信頼され、良き多くの人脈が生まれ応援してくれたと思うからであります。弱みをさらすと劣等感、悩みが無くなって本来の戦いが出来るからであります。

曾野綾子の「人間の分際」とは「身の程」と言う事です。財産でも才能でも自分に与えられた量や質の限度を知りなさいと言う事です。人には努力で為し得る限度があります。青年は「大志を抱く」のも良いが「抱かない」のも賢さなのです。分際を心得て暮らせば、それはその人にとって最高の生涯の形だからであります。こんな簡単な原理さえ見極められず「人並み」や「流行」を追い求めて死ぬ愚かな者は多分曾野綾子一人ではないのであります。

「人間の分際 曾野綾子より」